

岐阜大学工業倶楽部 関西支部会報 創刊号

会員数増加へのご協力を

支部長 藤井 孝友



岐阜大学工業倶楽部 関西支部会報（創刊号）の発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年4月に関西支部の設立総会を開催し、お忙しい中、多数の皆様にご出席を賜り、無事、関西支部の立ち上げを盛大に祝うことができましたことを、まず、ご報告申し上げます。設立総会後の懇親会では、卒業以来何十年ぶりの再会に、お互い感激の余り言葉にならず、また、会場のあちらこちらで、再会を喜ぶ姿が見受けられました。久しぶりに聞く母校の近状や懐かしい仲間、先生方との語らいは何よりのプレゼントでした。

さて、関西支部の現在会員数は130名余りとなっておりますが、大阪を中心にした関西地区には潜在的に1,800名余りの卒業生がおられると聞いており、まずは、会員数を200名以上に増やすことを目標にしております。是非、皆様の友人、知人、先輩そして後輩、また会社の同僚など、多方面の皆様へ関西支部への参加の「声かけ」をお願いします。

関西支部が先輩、現役諸氏のみなさまの拠りどころとなるよう、われわれ役員一同最善を尽くし、これが牽いては母校の発展につながるものと確信しております。

関西支部が発足しました！

会報委員会 委員長 田中 健晴

2009年4月19日に設立総会が開催され関西支部が発足しました。

2004年4月、日本の国立大学は一斉に法人化され我々の岐阜大学の将来は、教育研究活動は無論のこと、地域への貢献度、民間企業との共同研究等幅広い活動が求められている。

2007年7月工業倶楽部本部より関西支部設立の要請があり、同年9月本部より檜和田専務理事、三輪学外理事が来阪されての協力要請を受け支部設立に向け準備が始まりました。

その後、設立準備会を10回以上開催し、種々の課題を解決、克服しながら設立の日を迎えることができました。関西地区には、1800名を越える方々がおられますが、その中の120名から支部会員への申し込みがありました。

関西支部設立総会は、2009年4月19日（日）13時より「大阪弥生会館」で総勢66名の方々のご出席を頂き開催されました。当日は、大変お忙しい中、安田岐阜大学副学長、若井和憲工学部長、磯貝工業倶楽部会長、檜和田専務理事、森脇良一元土木工学科教授のご来賓を賜り、記念すべきスタートの日となりました。今後、地域ごとの卒業生の組織化の強化拡大こそが大学が抱える現状の問題解決の何よりも重要であることを認識しながら関西支部の更なる発展を願う次第である。

第1回岐阜大学工業倶楽部関西支部講演会の開催

2009年10月24日、岐大工関西支部講演会が開かれ、『注目されるHEVの10年前と現状』と題して、1963年工業化学卒で元パナソニックEVエネルギー(株)社長の太田璋さんにお話をいただきました。

講演の内容は、①エコ関心の高まりから ②現実解としてのHEV ③HEV事業化の課題と思い出 ④燃費規制の現状 ⑤エコカーの種類と電池 ⑥新蓄電池開発の新たな国家施策などなど詳しくまた興味深くお話いただきました。

その後、39名の参加者から多くの質疑があり、何時までも熱心な交流が続きました。

初めての講演会としてはまずまずの参加数で、こうした行事を通じて会員相互の親睦・交流を図り、情報交換が出来たものと喜んでます。

その模様を写真でお知らせします。

文責：行事委員会 栗野 順二郎



第1回 岐阜大学工業倶楽部関西支部 見学会

開催日：平成22年2月28日（日）

参加人数：16名 見学場所：関西国際空港

「関空二期を知る」と題して、関空2期工事現場見学ツアーを開催しました。当日はチリ大地震による津波警報・注意報の影響で、出席予定者2名が職場待機を余儀なくされ、さらに予定していたグラスボートも欠航となり、文字通り波瀾の見学会となりましたが、2期工事の状況を間近に見・体感することができました。

大水深で軟弱な海底地盤上に敷き砂をして、サンドドレーン船で120万本に及ぶ砂杭を打ち込み、その後に揚土造成がされました。また、全てをGPS（全地球測位システム）で監視しながらの最新技術で大規模な用地造成を行った関空2期工事は、まさに技術者冥利に尽きると感じる瞬間でした。

見学会終了後は懇親会を開催し、年代・学科を超えた親睦を図ることが出来ました。

最後に今回の見学会は、1991年岐大院修了後、関西国際空港株式会社に入社のグループリーダー奥田豊さんに案内をして頂きました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

文責：行事委員会 東郷 茂



二期見学ホールで奥田氏の説明を聞く



二期島展望台で記念撮影

～ 関西支部へのメッセージ ～

☆ 関西支部会報創刊号によせて ☆

岐阜大学工学部 部長 若井 和憲

岐阜大学工業倶楽部関西支部の創刊号の会報発行を心よりお喜び申し上げます。

寄稿と言えれば次の様な事を思い出して、寄稿文とさせていただきます。

今は亡きナベヤバイテック会長の岡本太一様に工学部の「匠」に寄稿して頂いた時、同窓会の活動を活発にするのが良いと書かれていました。工業倶楽部の活動は種々なされてきたものの、永年会費を徴収された入学時から現役学生とのつながりは非常に細く、会報と名簿程度でしか見えていなかったのも事実です。そこで 21 年度暮れには、就職への助言をして頂きました。

関西支部の皆様方もこのような是非現役学生との接点を持っていただけることを期待しています。

☆ 関西支部設立一周年によせて ☆

岐阜大学工業倶楽部 会長 磯貝 徹

昨年関西支部設立総会の高揚とした気分ひたりにながら、大阪造幣局の桜を檜和田先生と観て、もう一年になります。関西支部の皆様には、スタートの一年大変であったと思いますが、支部の運営にご努力いただき誠に有難うございます。

昨年6月岐阜大学は、創立60周年を迎え、独立行政法人に変わって5年たち、産・官・学の連携も実績を積み、同窓会もこの機会に既存の役割を存続させながら岐阜大学同窓会連合会が設立され、卒業生も大学と一体となって活動しやすくなる仕組みがつくられました。岐阜大学基金の寄附活動も始まりました。支部活動は、大学を元気にする役割も担っております。六甲おろしを岐阜まで吹かせてください。関西支部の皆様もさらなるご活躍を期待いたします。

☆ 関西支部会報創刊号発刊に寄せて ☆

西濃支部長 加納 良長

関西支部の皆様、始めまして。此の度の関西支部の発足、引き続いて会報創刊号が発刊されますこと心からお慶び申し上げます。

発足に当たって発起人の方々、会報発行に当たられる編集の方々のご苦勞に深く敬意を表します。又、奇遇と申しますか貴支部長の藤井さんが大垣出身だとお聞きし大垣在住の小生にとっても深く親近感を感じるものがあります。

さて、私共西濃支部は、平成16年に岐阜県西濃地方【大垣市、ほか1市4郡】を範囲とし、在住、または企業に勤務されている同窓生を会員とし発足致しました。

一方、会報は、発足翌年に1号を発刊し現在11号に至っています。編集企画から原稿収集、印刷まで編集委員（理事）に、会報の配布、会費の収集には地区担当の理事の方々をお願いしています。紙面の関係で、活動の現状、課題等につきましても、まもなく発刊されます工業倶楽部本部会報30号に詳しく記載されていますので参考までにご一読ください。今後、関西支部、関東支部、西濃支部がお互いの交流を通じ、切磋琢磨し工業倶楽部の全国組織拡大に、ひいては母校の地位向上の一助になればと思います。今後の関西支部のご隆盛を蔭ながら祈りいたします。

☆ 関西支部会報発刊によせて ☆

関東支部長 小塚 忠

関東支部は発足後2年ちかくたって、支部活動も軌道に乗り始めたところです。活動内容は工業倶楽部会報や、関東支部ホームページを見てください。要約しますと、年数会の役員会、各部会が確実に行われるようになり、会議の間でも、毎日のように情報や意見の交換がメールで行われています。（個別役員間の情報や意見も、CCで全役員に知らされていますから情報は共有されています）

見学会も2回行われ、役員以外の会員の参加も少しずつ増えてきています。ホームページもかなり充実してきており、其のうちの重要記事は、半年に1回のニューズレターに記載し、確認されている会員に送付しています。

会員の声

「まだまだ元気な現役の声」

村山 涼二 1948年 化学工業科卒

私は岐阜工専・化学3回(1948)卒です。最初の仕事は抗生物質(ペニシリン・ストレプトマイシン)。1950年よりバヤリースオレンジ(日本最初の果汁飲料)、プラスチックライニング王冠、HDPEの飲料通箱(日本初)、ミネラルウォーター(六甲のおいしい水)など手がけました。

今は技術士として国内・海外(Newzealand, Australia, Canada)のミネラルウォーターの技術指導など。気がかりなことは、日本の食品は安全であるのに安心しない非科学的な日本の消費者。リスクコミュニケーションが必要。読んで欲しい本、松永和紀「メディア・バイアスあやしい健康情報とニセ科学」光文社新書

「関西支部の拡大を図るために」

塚口 義清 1971年 機械工学科卒

大学を卒業して皆さん其々異なった畑を歩み、多岐に渡る豊かな知識と経験を持って今日に至っている。先ずは全員のキーワードは岐阜大学工学部の卒業された方々ということ。そこで、今後の支部の拡大を図ることを考えると更にキーワードが最低ひとつ乃至ふたつが必要条件となる。キーワードとして①技術的講演会とか見学会の実施、②文化的なこと、芸術的なこと、音楽とか写真とか歴史等々、③運動的なこと、ゴルフとか、テニス等々のジャンルを増やすことで、会員の魅力ある内容でしかも参加することが容易である支部を造るが出来ることを期待しています。そして、大学が支部に期待している地域との連携の絆が更に強固なものにすることが出来るのではないかと考えます。

「若い会員の声から」

江尻 武弘 1999年 土木工学科修士卒

若手の会員数が少ない。理由は、学科・研究室単位での同窓会で充分。年配者ばかり。仕事、育児、遊びで忙しい。会費や総会費が高いなどか。総会、見学・講演会も隔年開催で、活動に希少性を設け、参加率を底上げし、コスト削減を図れないか。若手の会費は無償とし、幅広い年齢層での会員確保が必要。少人数で他支部と同様の組織運営は不可能。他支部と差別化を図り、低コスト=低頻度の運営により、関西支部存亡の危機を回避すべき。

名簿管理委員会からのお願い

“入会申込書”でお届けいただきました、会員各位の個人情報は

- * 会員各位への情報発信として
- * 会員相互の連携を計っていただくための中継的役割として

支部活動を円滑に進めるために重要なツールとなっております。そのためには、たえず生きた個人情報を把握しておくことが必要となります。

“お届けいただいている各位の情報に、変更が生じたとき、また新規に設定されたとき”お手数ですが、事務局までご連絡いただくようお願いいたします。

とくに、電子メールでの情報提供を優先にしておりますので、メールアドレスを變更新たに取得されたときは、お忘れなくご連絡、登録いただきますようお願いいたします。今後も各位の情報の管理には万全を期し、支部活動にのみ活用させていただきます。

ご連絡、お問い合わせ:

岐阜大学工業倶楽部関西支部 事務局長 阪上 丈一
〒554-0012 大阪市西区立売1丁目4番9号中井産業ビル4F
TEL:06-6543-6186 Fax:06-6543-6187
E-mail:koei@lime.ocn.ne.jp

岐阜大学工業倶楽部関西支部
発行人 支部長 藤井 孝友
編集人 会報委員会 委員長 田中 健晴
担当 木内 尚之
菅村 浩